

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報システム専攻科 (システムエンジニア専攻) (ネットワークエンジニア専攻) (AIエンジニア専攻)	夜・通信	12	9	
	情報システム専攻科 (システムエンジニア専攻 アドバンスコース)	夜・通信	10	9	
	情報システム専攻科 (ネットワークエンジニア専攻 アドバンスコース)	夜・通信	12	9	
	情報システム専攻科 (AIエンジニア専攻アドバンスコース)	夜・通信	10	9	
	情報システム科 (プログラミング専攻) (ネットワーク専攻) (AIプログラミング専攻)	夜・通信	6	6	
	情報システム科 (プログラミング専攻 アドバンスコース)	夜・通信	8	6	
	情報システム科 (ネットワーク専攻 アドバンスコース)	夜・通信	6	6	
	情報システム科 (AIプログラミング専攻アドバンスコース)	夜・通信	6	6	
	情報工学科 (高度ITシステム専攻) (高度ネットワーク・セキュリティ専攻) (AI&IoT専攻)	夜・通信	12	12	
商業実務専門課程	経理科	夜・通信	14	6	
	情報ビジネス科	夜・通信	6	6	
	ビジネスエキスパート科	夜・通信	6	6	
	経営ビジネス科	夜・通信	8	6	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2022/kyoin.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2020/directors.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社麻生 専務取締役	令和元年10月10日 ～令和5年10月9日	麻生塾の運営状況に関する情報について、現状を十分に把握した上で参画し、運営に多様な意見を取り入れる観点から、より俯瞰的な立場で意見を述べる。
非常勤	麻生商事株式会社 代表取締役会長	令和元年10月10日 ～令和5年10月9日	麻生塾の運営状況に関する情報について、現状を十分に把握した上で参画し、運営に多様な意見を取り入れる観点から、より俯瞰的な立場で意見を述べる。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程(カリキュラム)の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社システムソフト、リコージャパン株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程(カリキュラム)について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画書(シラバス)の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書(シラバス)を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業計画書(シラバス)の公表 確定したカリキュラム及び授業計画書(シラバス)は、4月にWebページに公開するとともに、学生に授業開始時に説明を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/abcc
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況(履修状況)等に基づいて、特別の場合を除き、学期末(前期・後期)に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。科目毎の評価方法は、シラバスに記載した評価方法に基づき行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験(追試験、再試験を含む)および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする。</p>	

○履修認定について

授業科目を履修し成績評価判定で合格した者に対し、所定の単位を授与する。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学習成果を総合的に判断する指標として、成績評価について「G P A (Grade Point Average)」制度を導入し、各学科別に相対的な成績分布を把握し、適切に実施している。

○G P A対象科目

開講する全ての授業科目をG P Aの対象授業科目としている。但し、次に掲げる授業科目に該当する場合は、G P Aの対象外とする。

- ①授業評価においてランクを付けずに合格 (R評価) 不合格 (D評価) のみで判定する授業科目
- ②学生が他校等で履修した授業科目 (本校における履修とみなし単位を与えるものに限る。)
- ③校長等がG P A算出除外科目として定める授業科目

○G P A (Grade Point Average)

学生が履修した授業科目の成績のGPは、下表のとおりとする。

評 語	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

G P Aは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$G P A = \frac{\text{【履修科目の単位数} \times \text{GP】の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

○G P A算出方法の公表

G P A規程を Web ページに公開するとともに、学生に、授業開始時に説明を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/gr_06.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき、適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー</p> <p>本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定</p> <p>卒業は、以下のすべてに該当する者で、校長が認めた者としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けている者 2 卒業基準検定を取得している者 3 学年の出席率が90%以上である者 <p>及び学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年課程 30 単位 2年課程 62 単位 3年課程 90 単位 4年課程 124 単位 <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行った上で、卒業要件を満たさない者については卒業判定会議において協議し、校長が判定を行う。</p> <p>○ディプロマポリシー及び卒業認定基準の公表</p> <p>ディプロマポリシー及び「進級・卒業に関する規程」（単位制以外の学科）、「履修規程」（単位制学科）をWeb ページに公開するとともに、学生に授業開始時に説明を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2020/gr_04.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 麻生塾

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2022/finance_02.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2022/finance_03.pdf
財産目録	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2022/finance_04.pdf
事業報告書	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2022/finance_01.pdf
監事による監査報告（書）	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aso/2022/finance_05.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (システムエンジニア専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	81 単位時間 /単位	104 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			188 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		310 人	6 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。 ○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるSCSK九州株式会社、社団法人福岡県情報サービス産業協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

<p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定 卒業要件は以下の通りである。 学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得</p>

<p>した者</p> <p>1年課程 30単位</p> <p>2年課程 62単位</p> <p>3年課程 90単位</p> <p>4年課程 124単位</p> <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
82人 (100%)	1人 (1.2%)	76人 (92.7%)	5人 (6.1%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
286人	9人	3.1%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由、経済的理由、学修意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (ネットワークエンジニア専攻)			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	112 単位時間 /単位	71 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			186 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人の内数	65 人	2 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるユニアデックス株式会社、ナビオコンピュータ株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況 (履修状況) 等に基づいて、特別の場合を除き、学期末 (前期・後期) に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験 (追試験、再試験を含む) および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、</p>

S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育人人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	26人 (96.3%)	1人 (3.7%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75人	2人	2.7%
(中途退学の主な理由) 学修意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。 学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (AIエンジニア専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	87 単位時間 /単位	98 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			188 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		48人	3人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社コア、株式会社 YE DIGITAL 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <p>1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活</p>

<p>用する能力。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定</p> <p>卒業要件は以下の通りである。</p> <p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>1年課程</td><td>30 単位</td></tr> <tr><td>2年課程</td><td>62 単位</td></tr> <tr><td>3年課程</td><td>90 単位</td></tr> <tr><td>4年課程</td><td>124 単位</td></tr> </table> <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>	1年課程	30 単位	2年課程	62 単位	3年課程	90 単位	4年課程	124 単位
1年課程	30 単位							
2年課程	62 単位							
3年課程	90 単位							
4年課程	124 単位							

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制</p> <p>各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	1人	3.0%
(中途退学の主な理由) 留学生の入国不可		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (システムエンジニア専攻アドシスコース)			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	38 単位時間 /単位	138 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			184 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人の内数	16人	0人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ジャステック、株式会社ゲット等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。
○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。
○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- | | |
|------|-------|
| 1年課程 | 30単位 |
| 2年課程 | 62単位 |
| 3年課程 | 90単位 |
| 4年課程 | 124単位 |

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (ネットワークエンジニア専攻アドシスコース)			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	108 単位時間 /単位	70 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			186 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人の内数	1 人	0 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるユニアデックス株式会社、福岡地域戦略推進協議会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況 (履修状況) 等に基づいて、特別の場合を除き、学期末 (前期・後期) に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験 (追試験、再試験を含む) および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、</p>

S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育人人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 2021年度卒業生なし。			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム専攻科 (AIエンジニア専攻アドシスコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	46 単位時間 /単位	132 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
186 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人の内数		2人	0人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社コア、株式会社 YE DIGITAL 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <p>1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活</p>

用する能力。

2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30 単位
- 2年課程 62 単位
- 3年課程 90 単位
- 4年課程 124 単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 2021年度卒業者なし。			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 2021年度在学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (プログラミング専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	77 単位時間 /単位	54 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			134 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	128人	8人	4人の内数	4人の内数	8人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成</p> <p>前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ゲット、キーウェア九州株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。</p> <p>その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定</p> <p>カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容</p> <p>授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- | | |
|------|-------|
| 1年課程 | 30単位 |
| 2年課程 | 62単位 |
| 3年課程 | 90単位 |
| 4年課程 | 124単位 |

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等
(概要)
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。
○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
59人 (100%)	13人 (22.0%)	40人 (67.8%)	6人 (10.2%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103人	2人	1.9%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (ネットワーク専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	87 単位時間 /単位	42 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
132 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		26人	2人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される三井情報株式会社、ナビオコンピュータ等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。

2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30 単位
- 2年課程 62 単位
- 3年課程 90 単位
- 4年課程 124 単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、学修支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13 人 (100%)	5 人 (38.5%)	8 人 (61.5%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等)

情報サービス業

(就職指導内容)

面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス

(主な学修成果（資格・検定等）)

基本情報技術者試験、応用情報技術者試験

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5.6%
(中途退学の主な理由) 成績不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (AIプログラミング専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	73 単位時間 /単位	52 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			128 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		6人	2人	4人の内数	4人の内数	8人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるNPO法人 QUEST、株式会社コア等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。
○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。
○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- | | |
|------|-------|
| 1年課程 | 30単位 |
| 2年課程 | 62単位 |
| 3年課程 | 90単位 |
| 4年課程 | 124単位 |

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等
(概要)
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、学修支援、進路支援等を個別で行っている。
○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	4人 (66.7%)	2人 (33.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	1人	9.1%
(中途退学の主な理由) 学修意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (プログラミング専攻アドバンスコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	34 単位時間 /単位	92 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
129 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		1人	0人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社ゲット、株式会社ジャステック等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。</p>

2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30 単位
- 2年課程 62 単位
- 3年課程 90 単位
- 4年課程 124 単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (ネットワーク専攻アドシスコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	76 単位時間 /単位	50 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			129 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0人	0人	4人の内数	4人の内数	8人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される福岡地域戦略推進協議会、ユニアデックス株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。
○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。
○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- | | |
|------|-------|
| 1年課程 | 30単位 |
| 2年課程 | 62単位 |
| 3年課程 | 90単位 |
| 4年課程 | 124単位 |

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。 学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	情報システム科 (AIプログラミング専攻アドバンスコース)			○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	42 単位時間 /単位	84 単位時間 /単位	3 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			129 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	4 人の内数	4 人の内数	8 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社コア九州カンパニー、株式会社YE DIGITAL等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授</p>

<p>業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>								
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育人人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定 卒業要件は以下の通りである。 学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p> <table> <tr> <td>1年課程</td> <td>30単位</td> </tr> <tr> <td>2年課程</td> <td>62単位</td> </tr> <tr> <td>3年課程</td> <td>90単位</td> </tr> <tr> <td>4年課程</td> <td>124単位</td> </tr> </table> <p>卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。</p>	1年課程	30単位	2年課程	62単位	3年課程	90単位	4年課程	124単位
1年課程	30単位							
2年課程	62単位							
3年課程	90単位							
4年課程	124単位							
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○定期的な個別面談の実施。</p>								

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 2021年度卒業生なし。			
（就職指導内容） 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 2021年度在学者なし。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 (高度ITシステム専攻)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	85 単位時間 /単位	146 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
239 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		131 人	0 人	4 人の内数	5 人の内数	9 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される

株式会社システムソフト、SCSK 九州株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。
その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	26人 (96.3%)	1人 (3.7%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92人	1人	1.1%
(中途退学の主な理由) 学修意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	情報工学科 (高度ネットワーク・セキュリティ専攻)				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	137 単位時間 /単位	96 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			241 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人の内数	51 人	1 人	4 人の内数	5 人の内数	9 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるユニアデックス株式会社、ナビオコンピュータ株式会社等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況 (履修状況) 等に基づいて、特別の場合を除き、学期末 (前期・後期) に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験 (追試験、再試験を含む) および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、</p>

S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育人人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 2021年度卒業生なし。			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報工学科 (Ai&IoT専攻)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位時間/単位	91 単位時間 /単位	142 単位時間 /単位	8 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
241 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人の内数		36人	3人	4人の内数	5人の内数	9人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。 ○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される

株式会社コア、NPO 法人 QUEST 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。

その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生なし。			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導、企業研究、進路ガイダンス			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.2%
(中途退学の主な理由) 成績不良		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。

分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程		経理科		○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	62 単位時間/単位	316 単位時間/単位	14 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			330 単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人		49人	1人	2人	3人	5人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される福岡商工会議所、株式会社 Flourish 等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス) の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書 (シラバス) を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況 (履修状況) 等に基づいて、特別の場合を除き、学期末 (前期・後期) に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の</p>

成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。
また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。
特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30単位
- 2年課程 62単位
- 3年課程 90単位
- 4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29人 (100%)	2人 (6.9%)	26人 (89.7%)	1人 (3.4%)
（主な就職、業界等） 経理事務			
（就職指導内容） 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本商工会議所簿記2級、全国経理教育協会簿記1級会計、 全国経理教育協会簿記1級工業簿記、MOS Word			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	2人	3.0%
（中途退学の主な理由） 学修意欲低下		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	情報ビジネス科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	61 単位時間 /単位	53 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
114 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		95人	2人	4人	3人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会

社アイスリーラボ、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。
その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

○授業計画（シラバス）の策定

カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。

○授業方法及び内容

授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。

○授業科目に対する成績評価

定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。

また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。

特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について

各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。

4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定

卒業要件は以下の通りである。

学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

1年課程 30単位

2年課程 62単位

3年課程 90単位

4年課程 124単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	0人 (0%)	30人 (93.8%)	2人 (6.3%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
(主な学修成果(資格・検定等)) MOS Word、MOS Excel、MOS PowerPoint、MOS Access			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87人	4人	4.6%
(中途退学の主な理由) 留学生の帰国、健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名			専門士	高度専門士	
商業実務	商業実務専門課程	ビジネスエキスパート科			○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	76 単位時間/単位	44 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			120 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		57人	1人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 授業計画書（シラバス）は以下のとおり作成及び公表している。</p> <p>○教育課程（カリキュラム）の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催されるリコージャパン株式会社、一般社団法人日本経営協会等からなる教育課程編成委員会において、教育課程（カリキュラム）について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授</p>

業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする

○履修認定について
各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)
教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。

○ディプロマポリシー
本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。

1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。
2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。
3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。
4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。

○卒業認定
卒業要件は以下の通りである。
学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者

- 1年課程 30 単位
- 2年課程 62 単位
- 3年課程 90 単位
- 4年課程 124 単位

卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制
各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催
(主な学修成果(資格・検定等)) 経済産業省主催 IT パスポート試験、MOS Word、MOS Excel
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58 人	1 人	1.7%
(中途退学の主な理由) 地元で就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	経営ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	71 単位時間 /単位	43 単位時間 /単位	5 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			119 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		32 人	2 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) は以下のとおり作成及び公表している。
○教育課程 (カリキュラム) の編成 前年度のカリキュラムの実施状況と成果の検証を行い、毎年6月に開催される株式会社バーズ・プランニング、株式会社アルファクス・フードシステム等からなる教育課程編成委員会において、教育課程 (カリキュラム) について意見を聴取する。 その後、行われるカリキュラム会議において、聴取した意見を基に討議し、教育理念・学科の目標、業界ニーズに照らし合わせ、次年度のカリキュラムを編成する。

<p>○授業計画（シラバス）の策定 カリキュラム会議により確定したカリキュラムを基に、各授業科目担当が2月までに「学校法人麻生塾シラバス作成ガイドライン」に則り、授業計画書（シラバス）を作成している。シラバスには、授業目標・授業概要・授業計画・評価方法等を記載しており、履修する学生が各授業科目の内容と目標を理解し、主体的に学ぶことが出来るようになっている。</p> <p>○授業方法及び内容 授業は講義と演習を中心とする。授業は学習内容に応じて、シラバスに記載の授業外学習指示に基づき、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開していく</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要） 成績評価・単位履修認定については、学則及び成績評価に関する規程等の定めに基づき実施している。</p> <p>○授業科目に対する成績評価 定期試験及び学修状況（履修状況）等に基づいて、特別の場合を除き、学期末（前期・後期）に行う。学修状況については、随時行う試験・レポート・実技試験・作品及び実習状況などのいずれか、又はこれらを総合したものとする。授業科目毎の成績評価方法はシラバスに記載し、その内容に基づき行う。 また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じて、定期試験（追試験、再試験を含む）および学修状況を総合的に勘案した総合評価とする。 特に定めがない場合、100点を満点としてのS・A・B・C・Dの区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。但し、規定する評価区分がそぐわない授業科目の評価は、合格の「R」、不合格の「D」のいずれかとする</p> <p>○履修認定について 各授業科目のシラバスに記載した評価方法に基づき、規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育理念を基にディプロマポリシーを下記のとおり定め、規程に基づき適切に実施している。</p> <p>○ディプロマポリシー 本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における実践的な専門知識・技術を修得し、情報社会や情報産業で活用する能力。 2. ビジネスを推進するための基礎となる社会人スキルを持ち、思いやりと自立心を持って知識・技術を社会に役立てる能力。 3. 社会の問題解決のために、多面的な視点から論理的な判断を行い、自らの考えを論理的に表現する能力。 4. 社会の変化に柔軟に対応したキャリアを形成する能力。 <p>○卒業認定 卒業要件は以下の通りである。 学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から下記単位を修得した者</p>

1年課程 30単位 2年課程 62単位 3年課程 90単位 4年課程 124単位
卒業の認定については、担任が卒業要件の確認を行い、卒業判定会議において校長が判定する。卒業要件の全てを満たさない者については卒業判定会議において協議の上、校長が判定を行う。尚、その者については一定の補講等を行い、校長が再判定する。
学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○定期的な個別面談の実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 営業職・販売職・営業事務等			
(就職指導内容) 面接指導、履歴書作成指導、業界セミナー開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) リテールマーケティング（販売士）検定2級、サービス接客検定2級、MOS Word MOS PowerPoint			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47人	6人	12.8%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、健康上の理由、学修意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、科目別補講		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報工学科 情報システム専攻科 情報システム科	120,000 円	630,000 円	525,000 円	施設・設備費、維持費、教科書・教材費、検定費、行事費
情報ビジネス科 ビジネスエキスパート科 経営ビジネス科 経理科	120,000 円	600,000 円	485,000 円	施設・設備費、維持費、教科書・教材費、検定費、行事費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2022/self-assessment.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>○基本方針</p> <p>実践的な職業教育の質を確保するため、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科の関連業界、卒業生、保護者など学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、学校運営等の改善を図るため、外部委員による学校関係者評価を実施し、結果を公表する。</p> <p>○評価項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育理念 (理念、目的、育成人材像) 2 学校運営 (運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム) 3 教育活動 (教育課程の編成・実施、目標設定、教育方法・評価、成績評価・単位認定、教育体制 教員組織、能力開発) 4 学修成果 (就職率、資格の取得率、退学率、キャリア形成) 5 学生支援 (修学支援、進路支援、学生相談、健康管理、経済支援、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人) 6 教育環境 (施設・設備、学外学習、インターンシップ、安全管理) 7 学生募集 (受け入れ方針、募集活動、入学選考、学生納付金) 8 財務 (財政的基盤、予算計画、監査、財務情報の公開) 9 法令遵守 (関係法令・設置基準の遵守、個人情報の保護、 10 内部質保証 (学校評価、教育情報の公開) 11 社会貢献・地域貢献 (社会貢献・地域貢献、ボランティア活動) 12 国際交流 (留学生受け入れ、相談体制、海外留学プログラム) <p>○評価委員の構成</p> <p>保護者、卒業生、地域住民、企業関係者、高等学校関係者及び教育に関する有識者から最低各1名、5名以上を学校自ら選任し、構成する。</p> <p>○評価結果の活用方法</p> <p>6月に開催される学校関係者評価委員会において、自己評価結果及び改善計画に</p>

<p>ついて説明した上で、委員からの意見・助言を求めている。 7月以降、委員からの意見について、重点項目、評価項目毎に整理し、教育活動等への具体的な活用について、校長代行を責任者として方策を策定し、次期重点目標設定、評価の改善活動に反映する。</p>		
<p>学校関係者評価の委員</p>		
<p>所属</p>	<p>任期</p>	<p>種別</p>
<p>情報システム専攻科在校生 保護者</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>保護者</p>
<p>平成6年度情報経理科卒業生</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>卒業生</p>
<p>自治会長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>地域住民</p>
<p>久留米市外三市町高等学校組合立 三井中央高等学校 学校長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>高等学校関係者</p>
<p>社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社サンレイズ 企画調査委員会 委員長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>福岡地域戦略推進協議会 事務局次長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>NPO 法人 QUEST 事務局長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>小林憲一税理士事務所 所長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>リコージャパン株式会社 福岡支社 MA 営業部 公共担当室長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 部長</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>企業関係者</p>
<p>学校関係者評価結果の公表方法</p>		
<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2021/hyoka.pdf</p>		
<p>第三者による学校評価 (任意記載事項)</p>		
<p style="background-color: #cccccc;"> </p>		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://asojuku.ac.jp/abcc/</p>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	麻生情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人麻生塾

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		215人	205人	－人
内 訳	第Ⅰ区分	126人	123人	
	第Ⅱ区分	50人	49人	
	第Ⅲ区分	39人	33人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				220人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	一人
「警告」の区分に連続して該当	10人	0人	一人
計	10人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	24人	0人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	一人	一人
計	24人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。